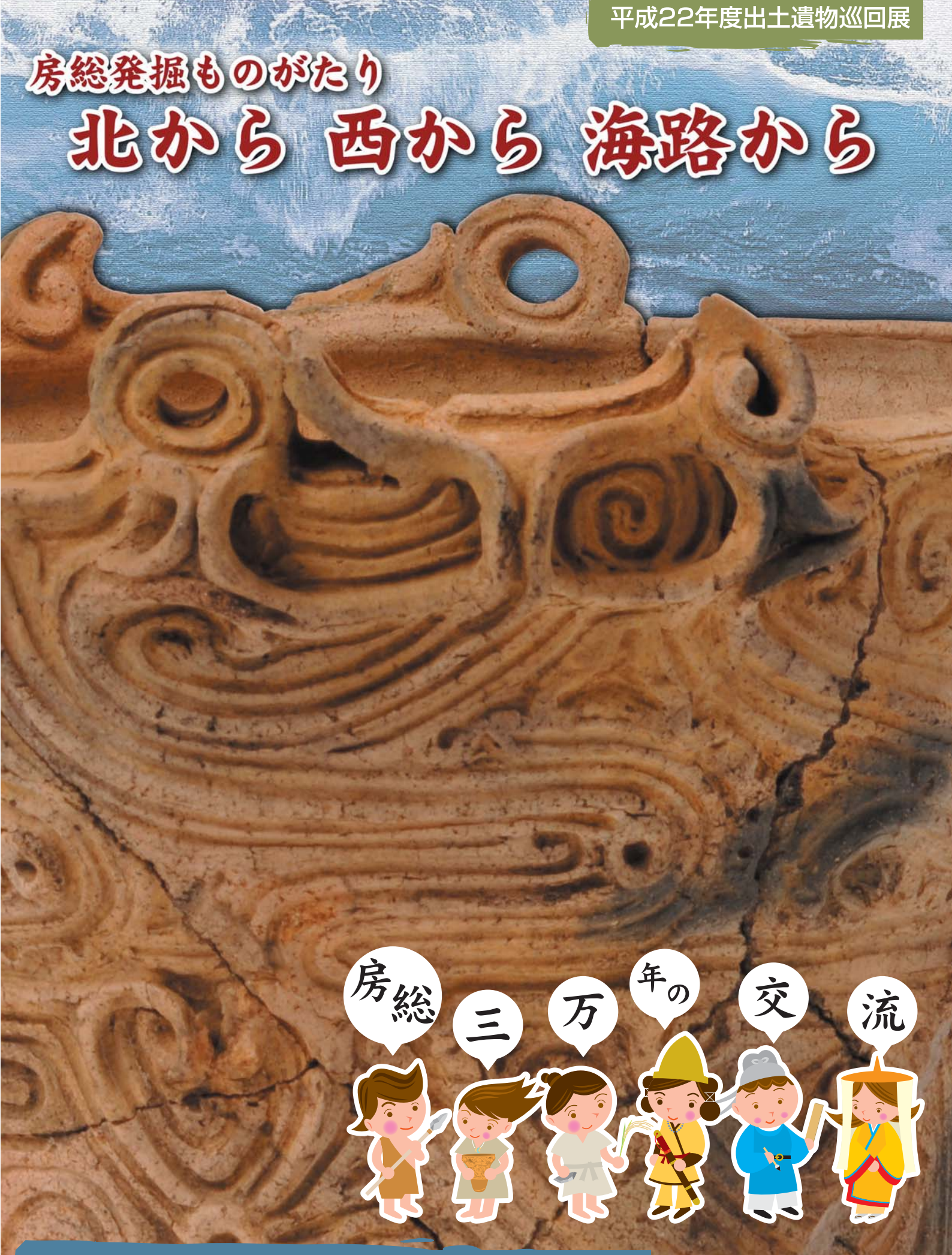
平成22年度出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

北から 西から 海路から



㈶千葉県教育振興財団
千葉県立房総のむら・木更津市郷土博物館 金のすず・館山市立博物館
八千代市立郷土博物館・千葉県立関宿城博物館・千葉県立中央博物館

ごあいさつ

千葉県では現在、年間450件程の発掘調査が行われ、房総各地の歴史と文化を伝える発掘成果が数多く得られています。

こうした貴重な成果を、多くの皆様にわかりやすくご覧いただくために、平成13年度から、出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」を開催しております。９回目を迎えた本年度は、「北から　西から　海路から―房総三万年の交流―」をテーマに、発掘調査によって内容が明らかとなった遺跡のなかから、注目される遺跡や遺物を選りすぐり、旧石器時代から近世にわたる各時代の地域間交流を具体的にご紹介いたします。

また、昨年の発掘調査により発見された資料や保存のために修復された資料につきましても、随時展示し、ご紹介してまいります。地下から掘り起こされた貴重な資料を間近にご覧いただき、房総の歴史や文化の多様性を感じ取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展覧会の開催に当たり、ご協力をいただきました関係機関ならびに関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

平成22年7月3日

財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター長　大原 正義

ご協力いただいた方々と機関（敬称略）

阿部寿彦・天野努・猪股佳二・大谷弘幸・大八木謙司・小倉和重・小野正敏・柿沼修平・北澤滋・黒沢哲郎・郷堀英司・湖口淳一・小牧美知枝・斉藤進・設楽博己・菅谷義範・土肥孝・戸倉茂行・長佐古真也・長原亘・長谷川福次・萩原恭一・半澤幹雄・松田富美子・松本太郎・山路直充・横田正美・渡邉修一

市立市川考古博物館・木更津市教育委員会・国立歴史民俗博物館・佐倉市教育委員会・茶道資料館・(財)印旛郡市文化財センター・(財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所・(財)東京都スポーツ文化事業団　東京都埋蔵文化財センター・(財)千葉市教育振興財団　千葉市埋蔵文化財調査センター・田原本町教育委員会・千葉県文書館・東京大学出版会・流山市立博物館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・成田市教育委員会・白山市教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・渋川市教育委員会

凡例

① 本書は平成22年度出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」の展示解説図録です。
② 展示資料は、会場により異なります。また、本図録に掲載された資料の中には、展示されないものもあります。
③ 本書掲載の写真・挿図は、提供もしくは転載させていただいたものは本文中に明記し、それ以外は当財団で作成しました。
④ 資料名称には、所蔵者が用いている名称等を変更しているものがあります。
⑤ 本展覧会の企画は、管理普及部長加藤修司が総括し、普及資料課長栗田則久の指導のもと、上席研究員森恭一・糸原清が担当し、図録はP6～P11を栗田、その他を糸原が執筆しました。
⑥ 表紙写真は大松遺跡出土縄文土器、裏表紙は大松遺跡出土大珠・佐倉城跡出土中国（景徳鎮窯）磁器を使用しました。
⑦ 展示遺跡の位置図はカシミール3Dを使用しました。

主要参考文献

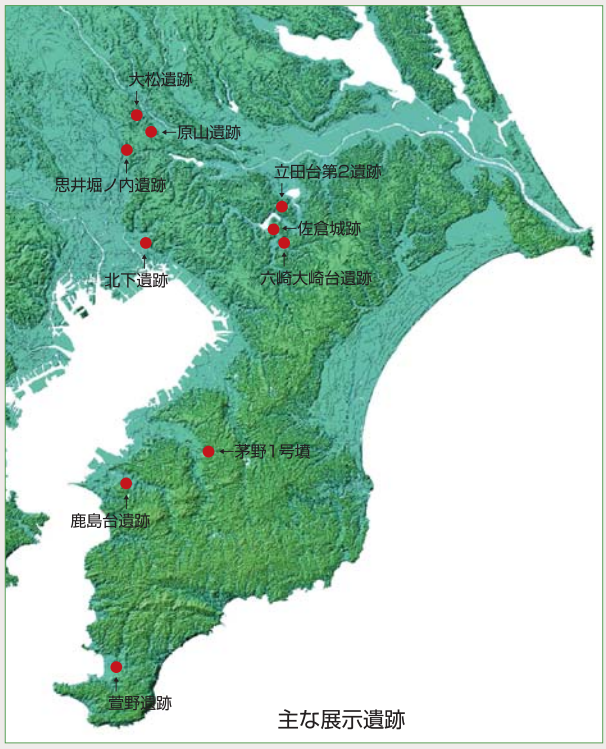
青木豊昭「古墳は語る」『福井県史 通史編1』福井県1993
伊藤純「古墳時代の黥面」『季刊考古学』第20号1987
小野正敏編集代表『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会2001
高橋一夫『手焙形土器の研究』六一書房1998
長谷川福次「道訓前遺跡の焼町土器」『道訓前遺跡』北橘村教育委員会2001
柿沼修平「六崎大崎台遺跡」『千葉県の歴史 資料編考古2(弥生・古墳時代)』㈶千葉県史料研究財団2003
木更津市教育委員会『平成14･15年度 木更津市内遺跡発掘調査報告書－茅野１号墳・金鈴塚古墳－』2004
佐倉市大崎台Ｂ地区遺跡調査会『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅰ～Ⅲ』1985～1987
佐倉市教育委員会『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅳ・Ⅴ』1997･1998
㈶印旛郡市文化財センター『印旛の原始・古代―旧石器時代編―』2004
㈶印旛郡市文化財センター『佐倉城跡(佐倉中学校第3～6次調査)』2009
㈶千葉県教育振興財団『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書1･2－流山市思井堀ノ内遺跡－』2006･2010
㈶千葉県教育振興財団『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書2－柏市原山遺跡－』2009
㈶千葉県教育振興財団『館山市萱野遺跡・宇戸台遺跡』2010
㈶千葉県教育振興財団『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書4－成田市松崎山ノ台遺跡－』2010
設楽博己「関東地方の弥生土器」『邪馬台国時代の東日本』国立歴史民俗博物館1991
流山市教育委員会『中世の流山を探る』流山市立博物館2009
日本第四紀学会編『日本第四紀地図』東京大学出版会1987
諸墨知義「有透穴器台出土地名表」『うつわ』創刊号 國學院大学第Ⅱ部考古学研究会1986
山路直充「ヤマトタケルの江戸川渡河伝説」『市史研究いちかわ』創刊号 市川市2010

北から 西から 海路から
―房総三万年の交流―

今からおよそ500～700万年前、人類はアフリカで生まれたと言われています。その後も、様々な進化をとげ、その中から現生（げんせい）人類（ホモ・サピエンス）が生まれ、そして世界中に拡がっていきました。アジア東端の日本列島には、遅くとも4万年前にはたどりつき、文化を刻み始めています。千葉県内からも、約3万5千年前の草刈遺跡を最古に、約千か所の後期旧石器時代の遺跡が発見されています。

日本列島の南東端に位置する房総には、その後も北から、西から、そして海からも、人とモノ、そして情報がもたらされています。日々の暮らしを支えた交流から、時代の変革をもたらした交流まで、房総三万年は様々な交流で彩られた歴史と言えるでしょう。

発掘調査で発見された考古資料というモノから、時代や地域性を読み取り、房総の歴史を作ってきた交流をご紹介します。



主な展示遺跡

展示会場と開催期間のご案内

千葉県立房総のむら ……	平成２２年７月３日㊏　～８月１日㊐
木更津市郷土博物館 金のすず	平成２２年８月７日㊏　～９月１２日㊐
館山市立博物館 ……	平成２２年９月１８日㊏～１０月３１日㊐
八千代市立郷土博物館 ……	平成２２年１１月６日㊏～１２月５日㊐
千葉県立関宿城博物館 ……	平成２２年１２月１１日㊏ ～平成２３年１月１６日㊐
千葉県立中央博物館 ……	平成２３年１月２２日㊏～２月２７日㊐

原山遺跡

大松遺跡

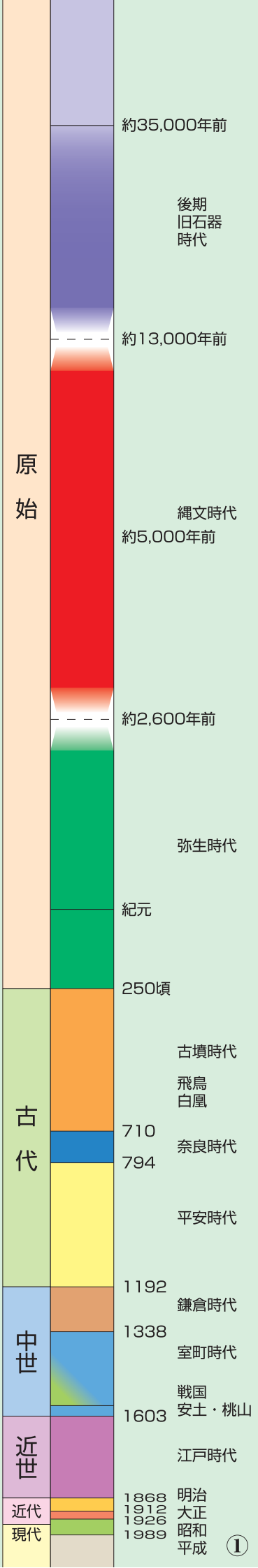
六崎大崎台遺跡

鹿島台遺跡

北下遺跡
思井堀ノ内遺跡

思井堀ノ内遺跡

佐倉城跡

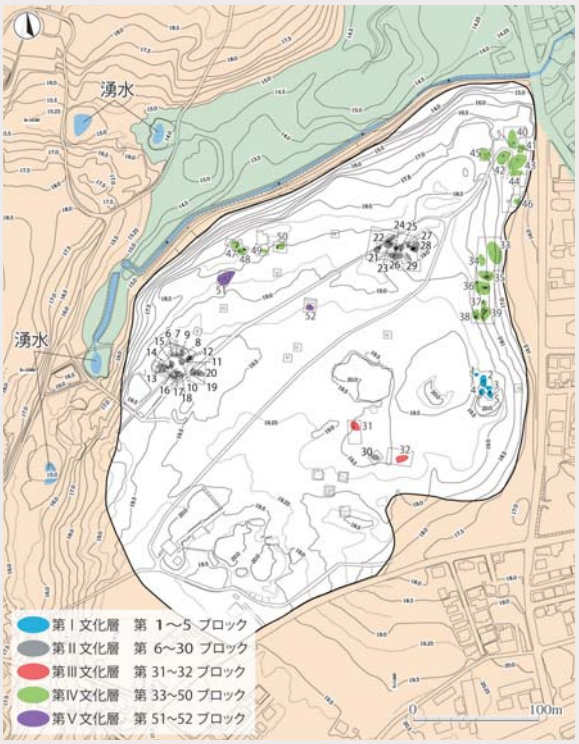


運ばれる石材

後期旧石器時代 原山遺跡（柏市）

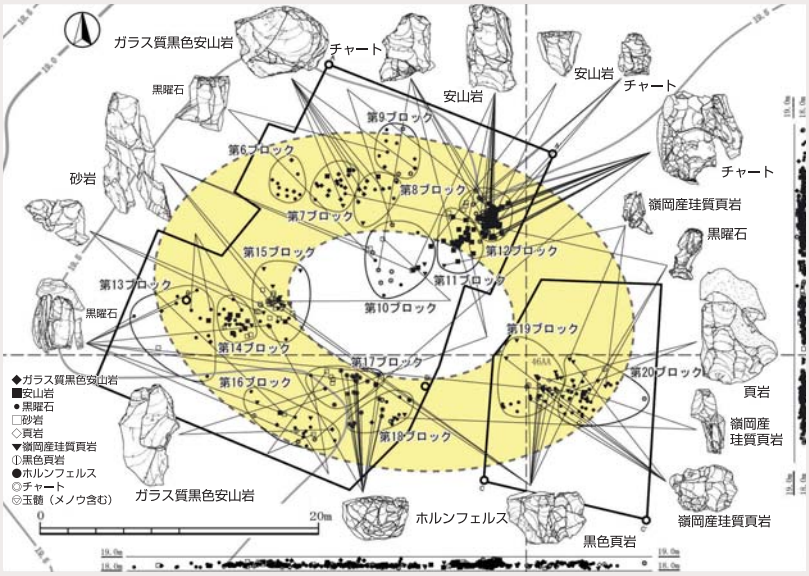
後期旧石器時代の遺跡は、ローム層という、火山灰が降り積もった赤土の中から発見されます。そこからは定住を示す建物跡はほとんど確認されませんが、石器や石器作りの際に生じる石の破片がまとまって見つかります。そのまとまりを検証することにより、短期間過ごしたキャンプサイトの存在を知ることができます。石器は、狩猟や調理などに欠かせない当時最も重要な道具でした。石器作りの技術や石材を比較することにより、他地域との交流や、世代を超えて共有される石材産地の情報などを知ることができます。

石器作りには、黒曜石や頁岩・チャートなど、加工しやすく、割れ口が鋭くなる石材が選ばれました。こうした良質な石材の産地は限られますので、交易で手に入れるか、はるばる遠方まで採りに行ったものと考えられます。

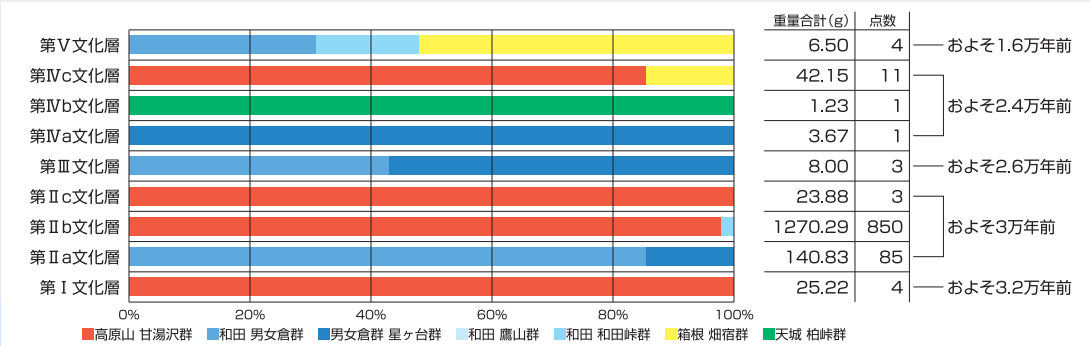


原山遺跡　文化層別ブロック分布図

具体的には、銚子や上総の房総丘陵（万田野・長浜層）、嶺岡山地（保田層）などの県内産の他、東北や関東、信州、伊豆、神津島など様々な石材が房総に運び込まれ、石器作りに利用されています。石材の産地同定は石質観察が基本ですが、黒曜石については蛍光Ｘ線分析と呼ばれる理化学的手法により、より明確な産地同定が可能となっています。

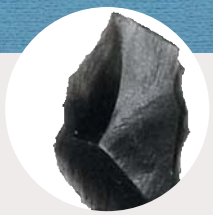


原山遺跡第Ⅱa文化層の分布と接合状況（環状ブロック）



重量合計(g)	点数	
6.50	4	およそ1.6万年前
42.15	11	
1.23	1	およそ2.4万年前
3.67	1	
8.00	3	およそ2.6万年前
23.88	3	
1270.29	850	およそ3万年前
140.83	85	
25.22	4	およそ3.2万年前

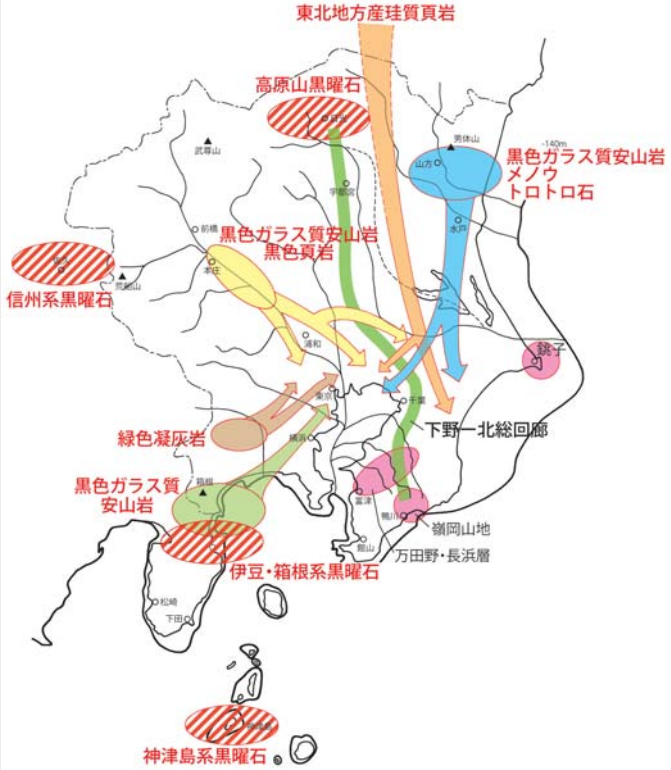
原山遺跡における黒曜石の重量産地比（「不明」資料を除外したもの）



下総台地北西部は、川に囲まれ、湧水地も多く、県内最大規模の旧石器時代遺跡群が発見されています。原山遺跡はその一角に位置し、立川ローム層Ⅹ層上部からⅢ層にかけて、5時期に細分される2,254点の石器が発見されています。多くの石器の存在は、周辺が豊かな狩猟場だったことを示しています。

発見された石材は、安山岩主体の時期から、多様な石材の時期、そして礫主体の時期へと変遷します。黒曜石の産地についても、高原山（栃木県）主体の時期から、信州（長野県）と高原山の時期、天城（静岡県）と箱根（神奈川県）がそれらに加わる時期などと変遷をし、多くの産地との交流が繰り返し行われていたことを示しています。黒曜石全体では、高原山産が最も多く出土していることが、石材の分析から明らかになっています。

この当時、利根川は陸化した東京湾に深い谷を刻む古東京川を形成し、鬼怒川も深い谷を刻んで銚子に注いでいました。下総台地北西部は、東西をこの二つの深い谷に挟まれ、北西側の小山台地、宇都宮丘陵、高原山へと続く、南北に長い下野ー北総回廊と呼ばれる台地の一部でした。活発な移動をする狩猟・採集民にとって、高原山へと続く下野ー北総回廊という広い地域こそが行動範囲であった可能性があります。



関東地方における石材原産地と移動ルート
㈶印旛郡市文化財センター2004より転載（一部改変）

石器　原山遺跡　㈶千葉県教育振興財団 保管

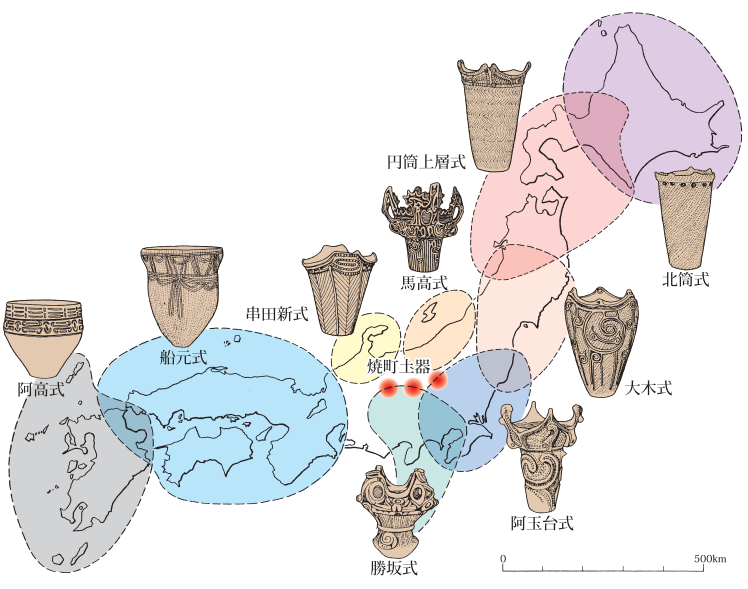
文様の交流

縄文時代中期 柏市大松遺跡

縄文時代になると土器が使われるようになり、旧石器時代の焼く、蒸すという調理方法に加えて煮炊きができるようになりました。こうして人々が口にできる食糧が大幅に増えると、それまでの食糧を求めて移動する生活から竪穴住居を設けて一定の場所に定住する生活が可能になりました。定住は、その土地の環境に適応した技術や知識を蓄積することになり、地域による文化の違いが明瞭になってきます。

縄文時代中期には関東・甲信越地方などで大型の突起や把手を付け、立体的な文様を持つ華麗な土器が盛んに作られます。東・北関東では扇形をした板状の突起を持つ阿玉台式土器がその代表です。一方、甲信・西関東では人面付きの突起を付けたり、楕円や渦巻きなどの文様を持つ勝坂式土器が分布し、北陸では燃え盛る炎のような突起を持つ馬高式土器が作られました。

地域ごとに独自の文様を共有することは、地域の連帯感を高める機能を果たしたと思われます。他方、文様の異なる他地域の土器はエキゾチックな感覚を呼び起こしたかもしれません。大きな集落から大量に出土する土器の中には、他地域の土器や文様が発見されることも多く、そこから人やモノの動き、情報の交換といった地域間の交流が盛んに行われていたことがわかります。



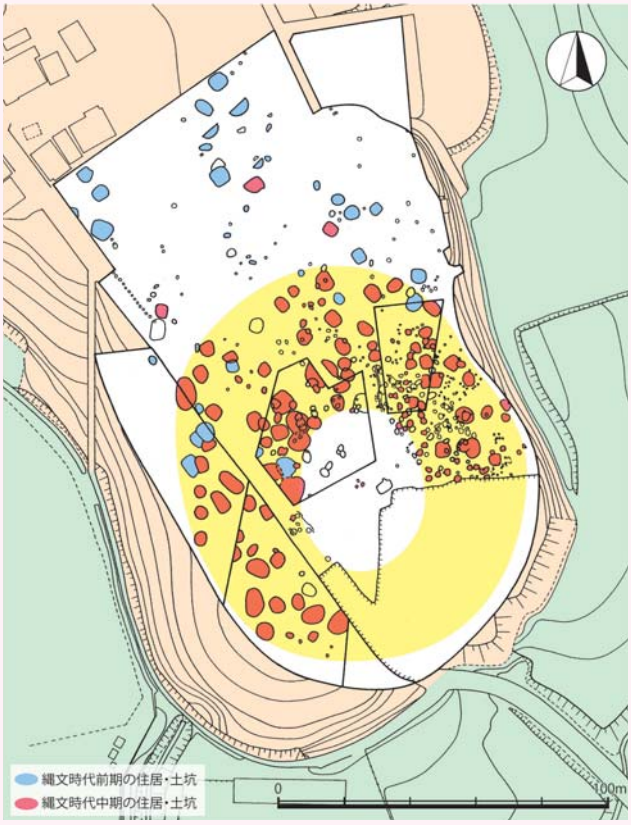
縄文時代中期の土器型式圏　日本第四紀学会編1987より加筆転載

北陸の馬高式系土器や焼町土器の文様を取り入れた特異な土器（展開写真）大松遺跡
㈶千葉県教育振興財団 保管

利根川にほど近い台地上に立地する大松遺跡から縄文集落が発見されています。縄文時代前期に数軒を単位とした集落が台地北側に出現し、縄文時代中期になると広場を中心にして住居が外側、貯蔵穴・墓穴が内側に配置される環状集落（かんじょうしゅうらく）が台地南側に営まれます。

環状集落は約7,000年前の関東・甲信越や東北地方などで成立し、縄文時代中期に最盛期を迎えます。多数の住居などが重なり合って発見されることから、多くの人々が長期にわたって暮らし続けたことを示しています。

大松遺跡の環状集落では、東関東などに分布する阿玉台Ⅱ式土器から加曽利（かそり）EⅠ式土器が主体的に出土しています。また、西関東などに分布する勝坂式土器の影響を受けた土器も多く、さらには北陸の馬高式系土器や東信州から北関東に分布する焼町（やきまち）土器の影響を受けた土器もわずかですが見つかっています。環状集落が発展する時期、こうした他地域との交流をもとに、他地域の文様を取り込んだ土器作りが行われ、中には芸術的に優れた土器も生まれました。



大松遺跡　縄文時代遺構平面図

阿玉台式土器・勝坂式土器の文様を
まねたり取り入れた土器など　大松遺跡
㈶千葉県教育振興財団 保管

文化の十字路

弥生時代中期～古墳時代前期
佐倉市六崎大崎台遺跡

弥生時代になると、いろいろな地域の文化が房総に影響を与えるようになります。

弥生時代中期には、東海から房総にかけて広い範囲が帯縄文土器群の文化圏に属し、下総地域には南東北や北・東関東の影響を受けた渦文系の土器群が入り込んでいます。近年の調査により、これらの北・東関東系の土器は、君津地域など上総側にも点在していることが明らかになってきました。

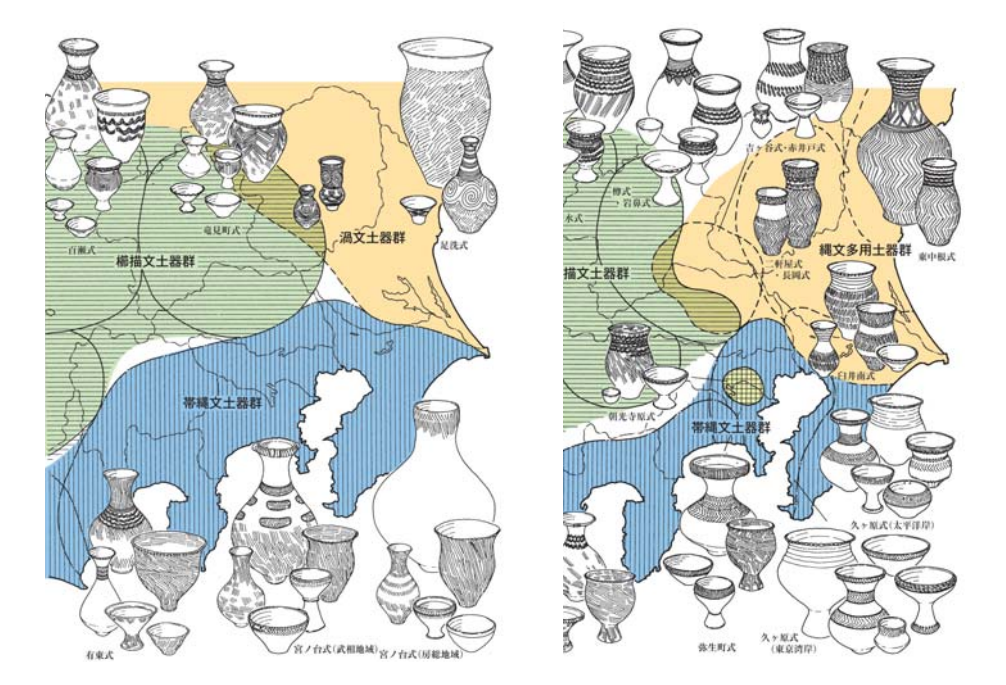
弥生時代後期には、中期の大きな文化圏が小さな文化圏に分かれ、房総も複雑な様相を示すようになります。神奈川県から千葉県西部にかけての東京湾岸地域には、中期の文化圏を継承するように帯縄文を主な文様とする久ヶ原式土器が展開し、太平洋岸にも類似する土器が浸透していきます。一方、下総地域には、茨城県の上稲吉式土器や栃木県の二軒屋式土器などの縄文を多用する土器群に影響を受けた独自の文化圏が広がり、従来印旛・手賀沼式土器や臼井南式土器と呼ばれています。ただ、この文化圏の中には東京湾岸の土器も伴っており、この地域には交錯した様相も見受けられます。

各地の土器の影響は生活の変化にもあらわれ、特に墓制の分布に土器と似た傾向がみられます。中期には、南東北に起源が求められる「壺棺再葬墓」が主に下総地域に分布しています。このタイプの墓は、近年の調査により、上総の君津地域にも確認されています。再葬墓よりやや遅れて登場する「方形周溝墓」は、東海地方の影響が強い墓制で、上総地域の東京湾岸を中心に、太平洋岸や下総の印旛沼周辺まで広く分布しています。後期になると、再葬墓は姿を消し、県内は方形周溝墓が

弥生土器（中期）　六崎大崎台遺跡　佐倉市教育委員会 蔵

弥生土器（後期）　六崎大崎台遺跡　佐倉市教育委員会 蔵

空から見た六崎大崎台遺跡　佐倉市教育委員会 提供

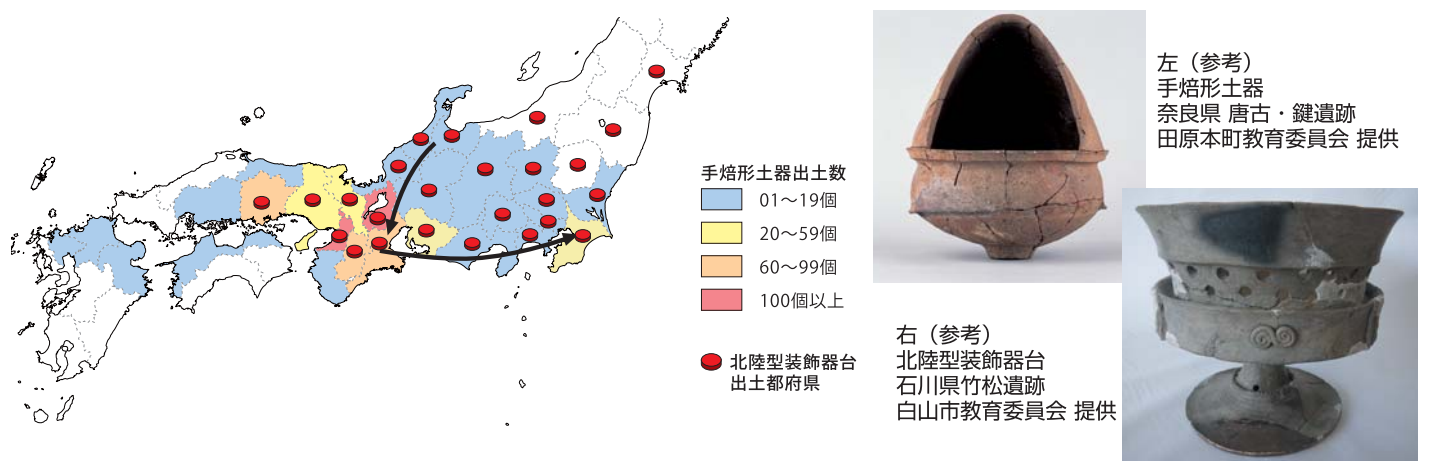


弥生土器中期後葉（左）・後期（右）
土器分布図　設楽1991より転載

中心を占めるようになります。また、中期後葉になって登場する「環濠集落（かんごうしゅうらく）」は、西日本に起源があり、上総北西部の東京湾岸を中心にみつかっています。

このような弥生時代を通した地域性も、古墳時代が始まると、畿内や東海などの西からの文化に統一されるようになります。弥生時代の墓から古墳時代の前方後円墳などの古墳に移行し、土器も西からの影響を受けたものに一斉に変化していきます。

土師器（古墳時代前期）　六崎大崎台遺跡　佐倉市教育委員会 蔵



左（参考）
手焙形土器
奈良県 唐古・鍵遺跡
田原本町教育委員会 提供

右（参考）
北陸型装飾器台
石川県竹松遺跡
白山市教育委員会 提供

弥生時代末～古墳時代前期の土器の動き模式図

埴輪全盛のきざし

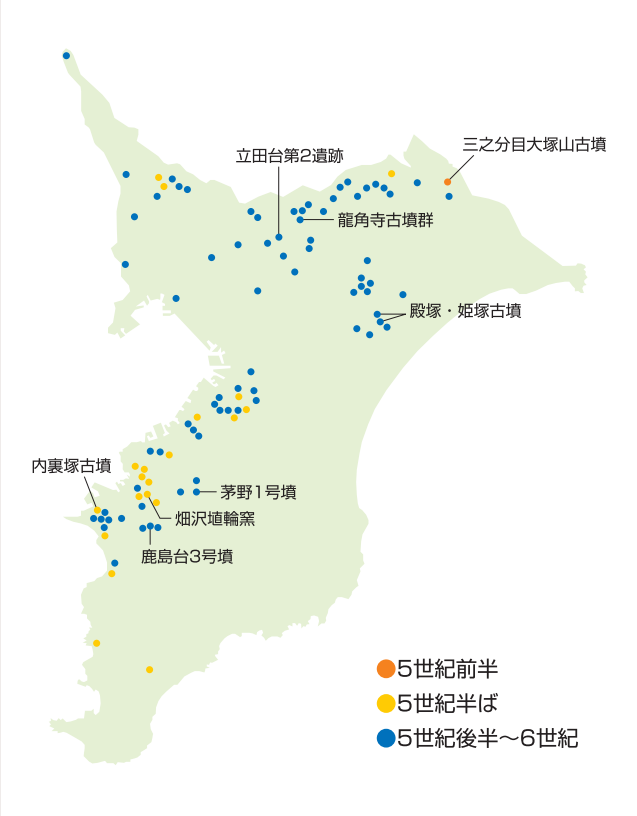
古墳時代中期 鹿島台遺跡（君津市）

県内の埴輪を大まかにみていくと、下総地域と上総・安房地域に分けられ、それぞれ常陸と畿内の要素を強く有しています。この状況は、弥生時代からの土器や墓制などの文化圏とほぼ類似しています。

房総最古の円筒埴輪は、5世紀前半の香取市三之分目大塚山古墳出土のもので、朝鮮半島から伝わった「窖窯」という焼成技法が導入される以前の「野焼き」で焼かれた埴輪です。

次の5世紀半ばになると、畿内から東海地方を経由して入ってくる「B種横ハケ」という調整技法による円筒埴輪が関東地方に広く分布します。このような埴輪は県内では上総・安房地域で確認されていますが、群馬県や埼玉県北部のような一般的にみられる技法ではなく、「縦ハケ」が主体で一部「B種横ハケ」が含まれるという地域的な特徴があります。

この時期の代表的な埴輪をもつ古墳は富津市内裏塚古墳ですが、同じ水系（小糸川）に属する君津市鹿島



千葉県埴輪分布図

円筒埴輪　鹿島台3号墳　㈶千葉県教育振興財団 保管

埴輪・土器　立田台第2遺跡　㈶千葉県教育振興財団 保管

台遺跡内の3号墳から内裏塚古墳よりやや新しい時期の円筒埴輪などが出土しています。径20mほどの円墳で、円筒埴輪の多くが4条5段の形態ですが、他に2条3段のものも数点含まれています。これらの特徴としては、畿内の影響を受けた「B種横ハケ」の技法が少なく、「縦ハケ」が主体となる点が挙げられます。同じ4条5段の円筒埴輪を出土した木更津市茅野（かやの）1号墳でも同様の状況がみられ、上総・安房地域の特徴として考えることができます。

また、君津市鹿島台3号墳からは、鯨面（げいめん）（入れ墨）埴輪が1点出土しています。顔のみの出土で、全体像は不明ですが、「楯持ち埴輪」に歯を表現する例が多いこと、本資料も歯の抜けた跡があることから、武人の「楯持ち埴輪」となる可能性があります。このような鯨面埴輪の分布は関東と畿内を中心にみられますが、顔の輪郭に入れ墨をする鹿島台3号墳のようなタイプはほとんど畿内に集中しています。この鯨面埴輪の分布からは、「B種横ハケ」という畿内からの調整技法の伝播とともに、5世紀後半の上総地域の埴輪には畿内の影響が強く表れていることを示しています。

近年の調査で、下総にもほぼ同時期の円筒埴輪が確認されました。印西市立田台（たっただい）第2遺跡からは、「縦ハケ」調整の円筒埴輪などが多数出土しており、胎土などから、霞ヶ浦を挟んだ茨城県側との関係が強いとされています。ただ、立田台遺跡の埴輪が2条3段構成となるのに対し、茨城県南側は3条4段が一般的であり、茨城県側の生産と判断することは現状では明らかではありません。

鯨面埴輪　鹿島台3号墳
㈶千葉県教育振興財団 保管

鯨面埴輪分布図
（顔の周りに環状の入り墨を施すタイプ）

（参考）
大阪府　長原45号墳
㈶大阪市博物館協会 提供

（参考）
奈良県　石見遺跡
奈良県立橿原考古学研究所
附属博物館 提供

（参考）
奈良県　羽古田遺跡
田原本町教育委員会 提供

（参考）
奈良県　笹鉾山1号墳
田原本町教育委員会 提供

墨書土器が語るもの

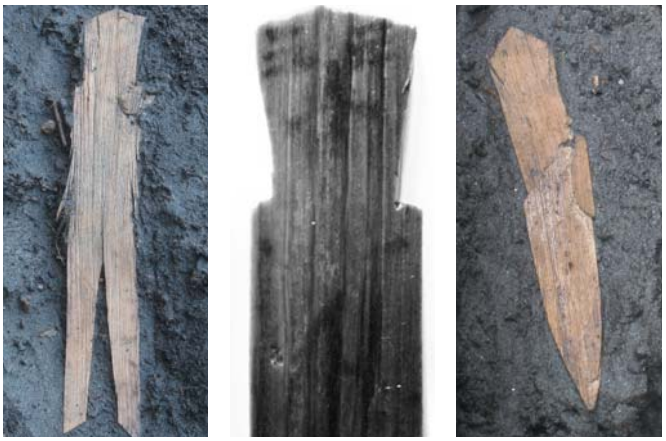
奈良・平安時代 北下（きたした）遺跡（市川市）
思井堀ノ内（おもいほりのうち）遺跡（流山市）

奈良・平安時代になると、中央から地方への文書の伝達などにより文字が広く普及するようになります。それとともに文字文化が人々の暮らしの中に浸透し、墨書土器をはじめとする文字資料が遺跡の調査で多く発見されています。特に千葉県では現在までに全国でも最も多い2万点に近い文字資料が確認され、古代の暮らしぶりを考えるうえで重要な資料となっています。

市川市北下遺跡は、下総国府域の推定範囲の東端部に位置し、蛇行（だこう）する古代の川の跡が発見されました。出土した墨書土器としては、結城郡や葛飾郡などの郡名が書かれた地名墨書、人面が描かれたもの、国分寺の施設名を書いたものなどがみつかっています。その中には、類例の少ない仏像を描いた墨書土器

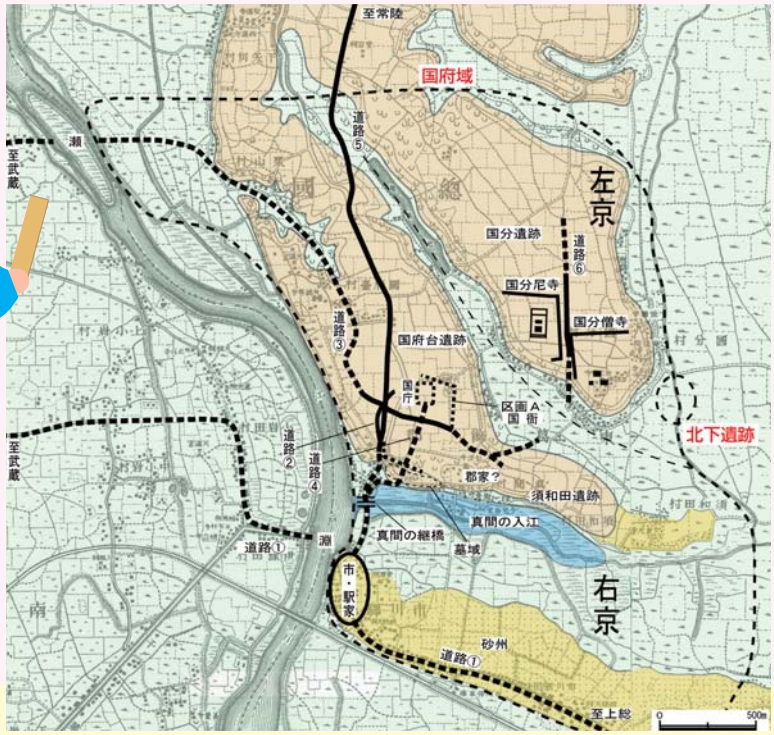
仏像を描いた墨書土器

人面墨書土器

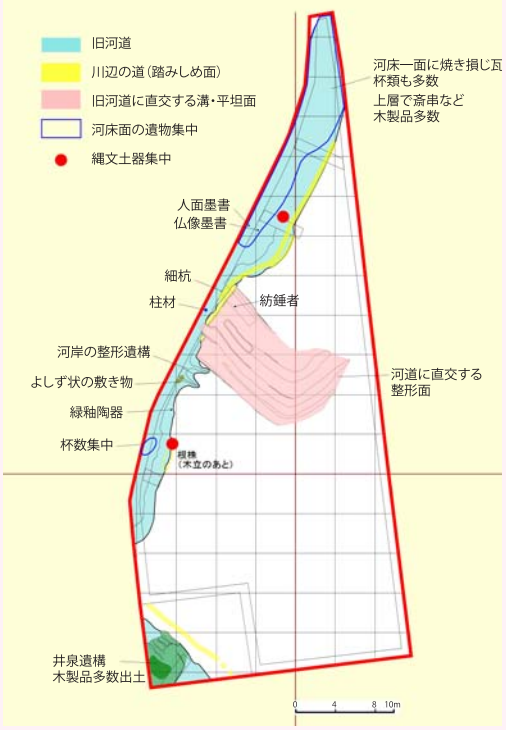


形代（人形）　斎串

墨書土器・木製品　北下遺跡　㈶千葉県教育振興財団 保管



下総国府域概念図　山路 2010より転載

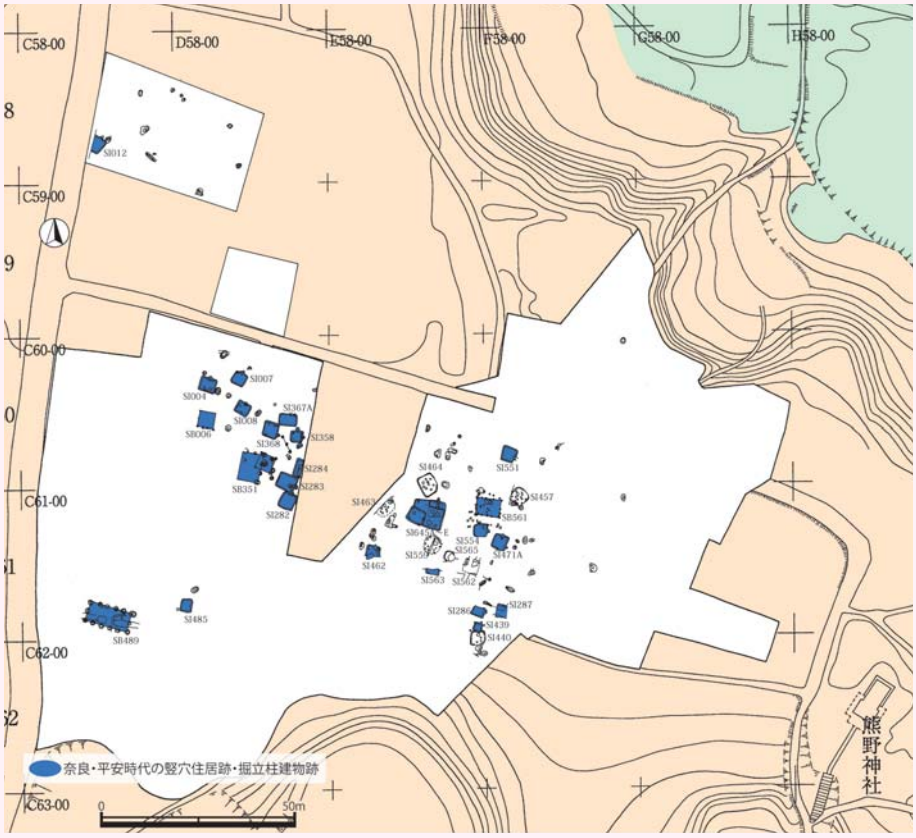


北下遺跡（11）-2地点遺構平面図

があり、注目されます。他に、斎串や形代（人形・馬形など）などの祭祀に用いられる木製品も多数出土しています。遺構としては、川の跡とともに道路や護岸施設、井泉などが見つかりました。

人面が描かれた墨書土器は、下総国分尼寺でも見られる他、印旛沼周辺の遺跡からも多く出土しています。また、人形や馬形などの形代は印西市西根遺跡でも確認されています。

江戸川沿いに位置する流山市思井堀ノ内遺跡からは、「庄」と書かれた墨書土器が30点以上出土し、8世紀後半から9世紀にかけての初期荘園となる可能性が考えられます。遺跡内からは、緑釉陶器や灰釉陶器などの貴重な陶器類とともに国分寺系の平瓦が出土しており、荘園開発には近くの流山廃寺及び下総国分寺の関与が想定されます。



思井堀ノ内遺跡　奈良・平安時代遺構平面図

古代の荘園は、中央の大寺社や貴族の財力によって開墾された土地を指し、特に北陸を中心とした東大寺領荘園の存在はよく知られています。近年、栃木県や茨城県などで荘園名が書かれた墨書土器が発見され、関東地方でも荘園開発が盛んに行われていたことが想定されるようになりました。

墨書土器「庄」・緑釉陶器　思井堀ノ内遺跡　㈶千葉県教育振興財団 保管

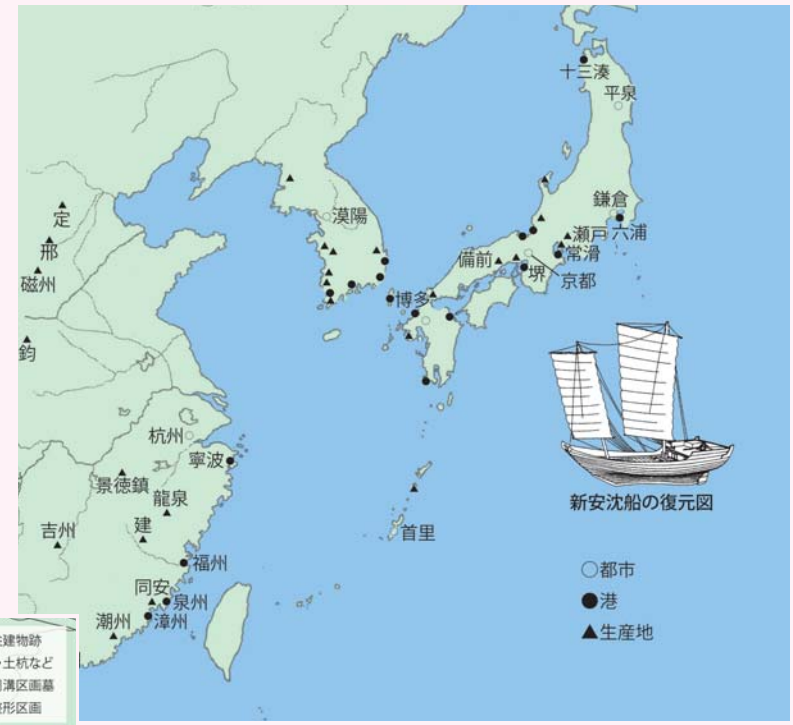
陶磁器の広がり

鎌倉時代 思井堀ノ内遺跡（流山市）
江戸時代 佐倉城跡（佐倉市）

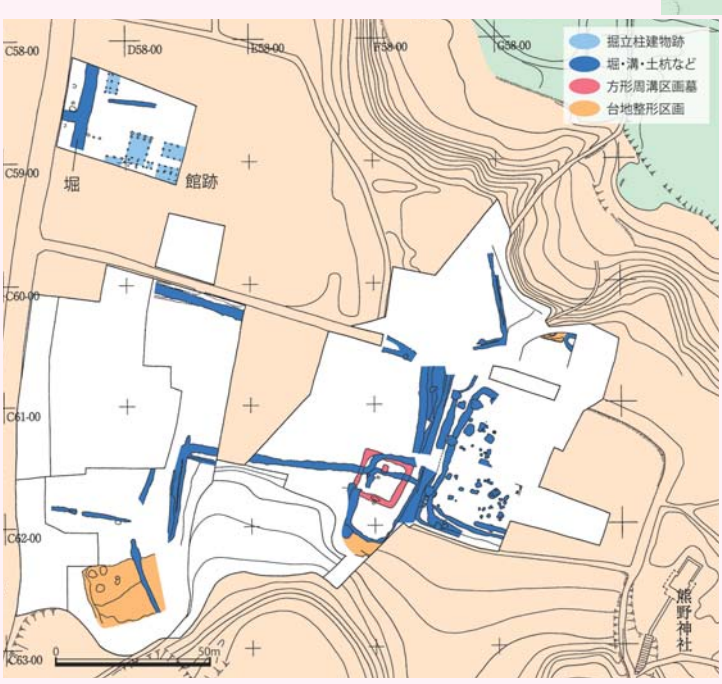
鎌倉が政治の中心となり多くの物資が全国から集まるようになると、経済や流通の要としても機能しはじめます。一方、中国との交易も盛んに行われ、陶磁器や銅銭などが多く輸入されました。

御家人の領地が多く鎌倉寺院の荘園も多く営まれた房総は、鎌倉の強い影響を受け、国内外の陶磁器が大量にもたらされます。武士の屋敷跡や墓などからは、中国龍泉窯産の青磁や福建省周辺の白磁などが発見されることがあり、これらが富や権力の象徴であったことがわかります。一方で国内陶器類は、主に日常雑器として使用されており、瀬戸・美濃窯産の碗・皿や常滑窯産の甕やこね鉢は、多くの遺跡から多量に発見されます。

その後も流通と技術の発展は続き、江戸時代の遺跡からは肥前（伊万里焼・唐津焼）や瀬戸・美濃の陶磁器などが多く発見されます。当時流通の大動脈であった太平洋・利根川水運をつなぐ房総は、干鰯や醸造品などの加工業や畑作物生産の発展によって、江戸等との交流を活発化させていきます。



中世東アジアの流通　小野正敏編集代表2001より転載（一部）



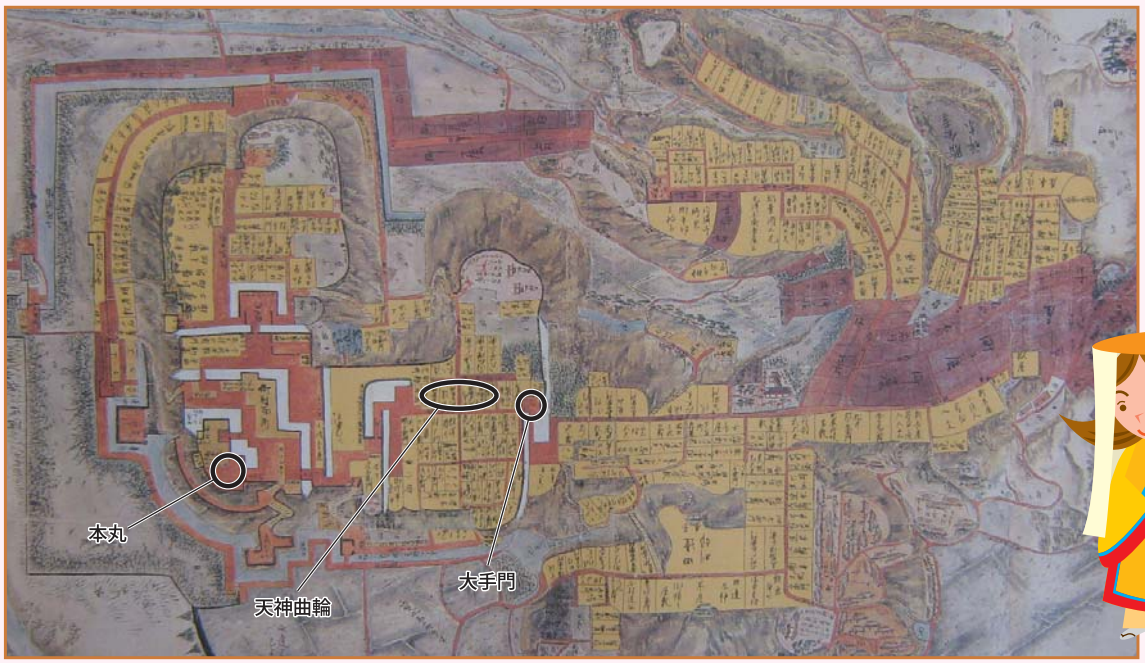
思井堀ノ内遺跡　中世遺構平面図

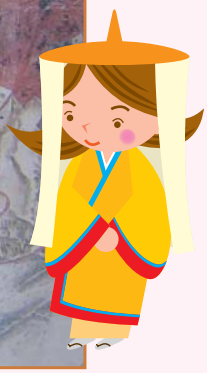
青磁皿・蓬莱鏡・白磁皿　思井堀ノ内遺跡
㈶千葉県教育振興財団 保管

思井堀ノ内遺跡からは、堀で区画された館跡と方形周溝区画墓が発見されています。館は12世紀末頃から14世紀初頭まで営まれ、墓は13世紀後半～14世紀初頭に造られます。館跡からは整然と配置された掘立柱建物跡とともに、宴席などで使われたかわらけや、青磁碗・皿や青白磁合子蓋などの高級陶磁器が出土し、千葉氏の一族で矢木郷の地頭であった矢木式部胤家の館跡と考えられています。墓からは青磁や白磁の碗や皿、金箔を残す木製品等が出土し、胤家の妻ないし娘の墓の可能性が指摘されています。

佐倉城とその城下町は、1610年(慶長15)に土井利勝が領主となり、建設が進められます。佐倉城跡ではこれまでに多くの発掘調査が行われていますが、近年、大手門内側の天神曲輪と呼ばれた上級武士の屋敷地が調査されました。建物跡や地下室、井戸とともに、大量の陶磁器や瓦・銅製品が発見されています。中国景徳鎮窯や肥前産の染付大皿や、献上品として限定生産されたブランド商品とされる鍋島藩窯の染付菊文皿などの高級品が出土しています。宴会に使われたこうした大皿や、嗜好品である煎茶道具などの出土は、上級武士の生活をうかがわせます。

陶磁器・土器　佐倉城跡　佐倉市教育委員会 蔵





（参考）古今佐倉真佐子附図　総州佐倉城府内之図（一部）佐倉市教育委員会 提供
江戸時代中期の佐倉城と城下町を描いた地図

千葉県
遺跡調査研究発表会

講演：白石太一郎先生
（大阪府立近つ飛鳥博物館長）
他 事例報告など

平成23年2月27日（日）
午後0時20分～4時30分
会場：千葉県立中央博物館

当日先着受付（200名）

編集・発行：財団法人千葉県教育振興財団
〒284-0003　四街道市鹿渡809番地の2
印　　刷：株式会社ニッセイアド

出土遺物巡回展―房総発掘ものがたり―は、平成22年度国宝重要文化財等保存整備費補助金（埋蔵文化財紹介・周知事業）の交付を受け、千葉県教育委員会の後援をいただいて行っています。